

顔文字の歴史について

鈴木 晃 二

キーワード：顔文字，インターネット

はじめに

近年のパソコン，携帯電話などのコミュニケーションツールの普及・発達によって，Eメールによる会話，インターネット上でのチャット，掲示板への書き込みが盛んになってきている。その中でも日々変化しているものに，「顔文字」がある。変化の速いネット文化において，昔を振り返り書き留めておくことは機会が少ないように思われる。そこで，ここでは，顔文字の発生・使用の歴史について述べることにする。

1. 先行研究

顔文字の歴史については，顔文字の歴史自体が短いということもあるのだが，歴史をしるした特別な文献があるわけでも，文献的な研究が行われているわけでもない。顔文字に関する論文などを発表する個人個人によって，その論文の一部で取り上げられ，その歴史が簡単に述べられているというのが現状である。

顔文字という言葉に関しては，高本（1993）にあるように，以前は，「顔文字」という言葉も定着しておらず，「絵文字」，「顔マーク」，「顔文字」，「フェイスマーク」，「ニコチャン・マーク」，「文字絵」，「文字顔」，「エモティコン」，「スマイリー」というように様々な呼び名があった。このことは，顔文字の発生・使用の歴史のごく一部である。

2. 研究方法

研究方法については，先行研究の部分でも触れたように，幾つかの論文の中に出てくる歴史を，それぞれインターネット上で確認していくとともに，インターネット検索で顔文字の歴史の詳しい情報を集め，まとめていくこととする。

3. 結 果

まずは、いくつかのホームページの中で、物証的に確認の取れているもの、または、本人による確認がされているものを、信頼性のあるものとしてとりあげ、顔文字の歴史とした。

インターネットのフリー百科事典である「ウィキペディア」の「顔文字」というキーワードでの検索結果によると、顔文字“:-)”と“:-(”を発明したのは IBM 社の Scott Fahlman であるとされている。これは、以下の文章が、アメリカ、ペンシルバニア州カーネギーメロン大学の電子掲示板に、バックアップデータとして現存するという点で、最も信頼がおけるといえよう。これによって 1982 年 9 月 19 日に顔文字が初めて使われたといえる。

19-Sep-82 11:44 Scott E Fahlman :-)

From: Scott E Fahlman

I propose that the following character sequence for joke markers:

:-)

Read it sideways. Actually, it is probably more economical to mark

things that are NOT jokes, given current trends. For this, use

:-(

この Scott Fahlman が初めて使ったとすることに対して、Kevin MacKenzie という、アーバンネット（アーバンネットとは、インターネットの先祖のようなもの）のディスカッション・グループのメンバーだった人物が、Scott Fahlman より 3 年ほど早く 1979 年に同じようなことを提案していたという話もある。しかし、これについては物証がなく信頼性に乏しいといえる。ここまでは、海外での顔文字使用の歴史といえる。

では、日本においてはというと、年代的にみると 1986 年に初めて使われたとされる。アスキーネットというパソコン通信上に記録が残っているのである。また、アスキーネットが 1985 年 5 月 2 日にスタートしたこともあり、それ以前に遡ってみることは難しいといえる。

初めて使ったとされる人物については、若林泰志と、binbou（ハンドルネーム、現在は“びん”とされ、本名不明）の二人である。

若林は、(^_^) を初めて使った。これは本人のバックアップデータがあるので信頼がおけるといえる。また、ほぼ同時期に、binbou が(^_^)を作り、使い出していた。若林は、binbou の(^_^)に影響を受けたのではないかと問われたことに対して、「(^_^)の影響を受けて(^_^)を作ったのではない、と断言します。文字だけで表情を出したくてあーでもないこーでもないと、工夫していた記憶がありますから」と言っている。また、若林は、「この当時、:-) の存在は知りませんでした。」とも言っている。つまり、若林は、完全に独力で、記号から顔文字を作り出したのである。

(ちなみに、若林本人の話は、やはりすべてバックアップがあり信頼のおけるものである⁽¹⁾。)

一方で、binbou は、伊藤 (2002) にもあるが、「アスキーネットが始まった頃、わたしは核物理や量子多体系などが専門の物理屋さんをやっていまして、毎日、 $\langle a | b \rangle$ やら $(x | y)$ といった記号を書いたり眺めたりしていて、 $(0 | 0)$ なんていうのが、なんだか顔みたいだと思って、それから、 $(_ _)$ などを使い始めたのだと記憶しています。」と言っている。同時に、「顔文字を使い始めたのが、若林より先だったか後だったかは分かりません。」とも言っている。binbou は、自分の専門分野の記号を眺めることによって、それが顔文字のきっかけとなり、顔文字を作り出したのである。(この binbou の話も、若林と同様に、バックアップが残っており信頼のおけるものである⁽²⁾。)

しかし、日本人の顔文字の使用ということにおいては、1981 年に慶應大学工学部を卒業した後、カーネギーメロン大学コンピュータ科学部大学院博士課程に入った富田勝が上記の Scott Fahlman の 1982 年 9 月 19 日の文章を電子掲示板で知って、その 3 日後に日本人としては最初に使ったということである。ここにあるびっくり顔マーク $(:O)$ は富田が発明したとされる。以下の文章は、富田が顔文字を初めて使ったときのバックアップである。

22-Sep-82 21:26 Masaru Tomita at CMU-10A $(:O)$ missing picture

The picture of me on the picture board in the CS lounge is missing.

One of the members of Tommy's fan club must have taken it.

Please note that I have a wife.

さらには、その後、京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センターの安岡孝一の独自の調査で、富田が初めて顔文字を使ったとされる電子掲示板への投稿以前にも、顔文字を使った日本人がいた可能性があることが明らかになった。安岡の調査によると、日本のコンピュータに限定しても、1971 年 1 月に国立国会図書館で使われはじめた NDL-70 というメインフレーム用の文字コードには「顔の形をした文字」が含まれているという。また、その後の 1978 年 12 月に発売された SHARP MZ-80K というパソコンにも「顔の形をした文字」が組み込まれており、これらの点を考慮しても「1982 年以前に日本人が顔文字を全く使っていなかったとは考えにくい」と安岡は言っているのである。

最後に、タイプライタを使用していた 19 世紀にも、タイプライタ雑誌『*The Typewriter World*』に、 $(:)$ という顔文字があり、少々強引ではあるが、そこまで遡ることが出来るのである。以下のアドレス (<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~yasuoka/publications/emoticon.html>) にアクセスすると、実際の当時の文章を見ることができるのだが、顔文字といえるかどうかは疑わしい。

4. 考 察

考察として、これまでの流れを簡単な年表にしてみる。

年代	顔文字の使用者	証拠となるもの
1897	不明	The Typewriter World (Chicago), Vol. 1, No. 2 (October 1897), p. 46
1979	Kevin MacKenzie	無し
1982	Scott Fahlman	電子掲示板 http://www.cs.cmu.edu/~sef/Orig-Smiley.htm (2006/12/17 アクセス)
1982	富田 勝	電子掲示板 http://www.cs.cmu.edu/~sef/Orig-Smiley.htm (2006/12/17 アクセス)
1986	若林泰志	アスキーネット http://staff.aist.go.jp/k.harigaya/doc/kao_his.html (2006/12/17 アクセス)
1986	binbou	アスキーネット http://staff.aist.go.jp/k.harigaya/doc/kao_his.html (2006/12/17 アクセス)

この年表は、顔文字の使用を年代順に表したものである。中でも、1897年と、1979年については、証拠としてはっきりしないものがあるため、やはり、顔文字の歴史は1982年からとするのがよいだろう。

なお、この年表で、Scott Fahlman と富田勝、若林泰志と binbou の証拠となるもののアドレスがそれぞれ同じであるのは、以前に電子掲示板とアスキーネットにそれぞれあったもののバックアップを、現在インターネット上で公開しているからである。

各国での顔文字の使用をみると、現在分かっていることは、大きく分けて、Western Style といわれるもの（左に90度倒れている顔のタイプの顔文字、:-) や :O など）と、East Asian Style といわれるもの（いわゆる日本人がよく使う顔文字（^_^:）や（^o^）など）の二つのスタイルがある。上記の年表も、この二つのスタイルをふまえて考えると、若林泰志と binbou が、日本の顔文字の歴史の始まりとなる。つまり、富田勝以前においては、顔文字は Western Style しか存在しなかった。East Asian Style は、若林泰志と binbou の二人によって生まれた。日本特有の顔文字の使用に限って言えば、顔文字の歴史は1986年からといえる。

今後の課題に先駆けて、East Asian Style について少し触れておくことにする。East Asian Style という言葉から、中国、韓国、台湾などを想像することは容易であろう。同じアジアの中で、日本と同じ East Asian Style の顔文字を使っているのかどうかということを調べるため、まず、これも同じくインターネットのフリー百科事典である「ウィキペディア」の中国語版と韓国語版で「顔文字」に該当するものを調べ、その単語を手がかりに、中国語版ヤフー、韓国語版ヤフー、台湾版ヤフーで検索をかけ、いくつかのホームページを閲覧してみた。その結果、中国も韓国も台湾

も、出現の割合は日本ほどではないものの、日本と同じく East Asian Style を使っている。

それぞれの顔文字の使用の印象は、中国では、インターネット上でもほとんどが漢字を使用しており、日常使用している記号や符号の数が日本と異なっている点などから、使える記号や文字に制限があると推測でき、顔文字の使用・出現数が少なくなっていると考えられる。このような理由から、若干ではあるが、Western Style が目に付くようになっているのではないだろうか。同様に、韓国でも、ハングルの使用によって、やはり中国と同じような状況になっていると考えられる。しかし、中国のように Western Style が目に付くことはほとんどなく、日本のいわゆる顔文字の使用が目立っている。台湾については、ホームページや電子掲示板では、日本と同様の顔文字も見られるのだが、記号や符号を組み合わせた顔文字の使用よりも、MSN メッセンジャーなどで使われているアニメーションとして動くアイコンの使用が目立っている。顔文字という言葉の捉え方が、いわゆる日本の顔文字と、顔のアイコン・アニメーションといったものの二種類になっており、それは、台湾版ヤフーでの検索結果からも判断できるところである。

中国、韓国、台湾での顔文字の使用について、ここではあくまでインターネット上で、どのくらい目に付くかを基準に、筆者の感覚だけを頼りに探したものであり、顔文字の使用を調査するには、実際に使っている中国人、韓国人、台湾人などの協力が不可欠であると考えられ、それによって、もっと詳細なデータを集めることができるだろう。

また一方で、調べていくうちに、中国、韓国、台湾だけでなく、タイの顔文字、(≡_≡)、(≡o≡)を発見した。これは、やはり、日本では使われない文字をタイが持っており、そこで作られたオリジナルの顔文字と考えられる。

このように、East Asian Style 内での比較・研究も、Western Style と East Asian Style の二つのスタイルの比較・研究と同時に、今後の課題として挙げられよう。

おわりに

以上のように、顔文字の歴史について述べてきたわけだが、これらは、日本と海外での顔文字の発生と使用を年代順にあってまとめたものである。あくまで日本をメインに考えたため、各国の発生と使用が検証できていないのが実情である。この「各国での顔文字の発生と使用の実情」は、Western Style と East Asian Style の二つのスタイルもふまえて取り組んでいくのが、今後の課題である。

〈注〉

- (1) 参考文献 針谷のアドレスにアクセスし、参照のこと
- (2) 参考文献 針谷のアドレスにアクセスし、参照のこと

参考文献

金川欣二「フェイスマークの図像学 (‘_’:)」『金川欣二☆言語学のお散歩 (マック de 記号論)』

- <http://www.toyama-cmt.ac.jp/~kanagawa/facemark.html> (2006/12/17 アクセス)
- 杉山滋郎 (2002. 10. 8)
- <http://www.hps.hokudai.ac.jp/Education/QandA/emoticon/index.html> (2006/12/17 現在閉鎖)
- 針谷喜久雄「顔文字の歴史」『Dr. Kikuo Harigaya』
- http://staff.aist.go.jp/k.harigaya/doc/kao_his.html (2006/12/17 アクセス)
- フリー百科事典「顔文字」『ウィキペディア (Wikipedia)』
- <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A1%94%E6%96%87%E5%AD%97> (2006/12/17 アクセス)
- フリー百科事典「emoticon」『Wikipedia, the free encyclopedia』
- <http://en.wikipedia.org/wiki/Emoticon> (2006/12/17 アクセス)
- フリー百科事典「이모티콘」『위키백과 - 우리 모두의 백과사전』
- <http://ko.wikipedia.org/wiki/%EC%9D%B4%EB%AA%A8%ED%8B%B0%EC%BD%98> (2006/12/17 アクセス)
- フリー百科事典「表情符号」『维基百科，自由的百科全书』
- <http://zh.wikipedia.org/wiki/%E8%A1%A8%E6%83%85%E7%AC%A6%E5%8F%B7> (2006/12/17 アクセス)
- 伊藤雅光 (2002)「電子メールなどのフェイス・マークの起源はなに？」『日本語あれこれ事典』明治書院 341-344
- 高本條治 (1993)「パソコン通信におけるフェイスマークの機能」『日本語学』12 明治書院 63-74
- 村山雅子 (2004)「顔文字でみる異文化」『情報処理センター広報』24 富山商船高等専門学校 40-41
- 安岡孝一 (2004)「顔文字は文字なのか」『漢字と文化』3 京都大学 21 世紀 COE 東アジア世界の人文情報学研究教育拠点 4-6